



「未来を生きる子ら」 核兵器のない自由で平和な世界を願いナガサキから世界の青空へと舞い上がる



8月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ グループ分会 2024年発行

No.476

最低賃金上げ幅50円

物価高に追いつかず！

中央最低賃金審議会（厚生労働相の諮問機関）の小委員会は7月24日、2024年度の最低賃金の目安を全国平均で時給1054円にすると決めた。10月中に、現在の1004円から50円の引き上げとなるようですが、私たちの生活に必要な、エネルギー価格や食品物価の上昇がそれ以上でとてもついていきません。最低でも1500円までは上げなくては、生活に余裕ができません。

「少子化」問題を解決するためにも男女ともに長時間労働から解放され、「自分と家族のための時間」を確保すること

が必要です。「家事・育児・介護など、家族的責任を果たすための時間を確保する。」

人間らしい生活を実現するためには、労働時間短縮は必要です。

私達労働組合は、今年の秋闇・年末一時金要求にて、非正規の時給アップ、時短についても要求していきます。

自民党総裁選より 裏金問題の報道を！

問題だらけで支持率が低迷國民に政治不審を招いていた自民党の岸田首相が退陣を表明しました。

自民党もこのまま彼が首相では今度の選挙に影響が出ると思込んでいるのでしょうか。

今では次期総理は誰かなど裏金問題では、マスコミがあまり政治の部分を報道していくなかつたのに急に騒ぎ出しました。国民的に受けのいい人を取り上げて、客寄せパンダみたいなことを行い自民党の支持率を上げていく、国民の政治不信を招いた問題には、なにも対策しないままに、何もなかつたかのように新たな悪政を働いていきます。

國民の大多数は、「誰に代わっても自民党は自民党、新たに顔になつたところで、裏金問題、統一教会問題に誰も言及はしないだろう、そもそも自民党の組織的犯罪なのだから。」「國民に選ぶ権利のない入党者の選挙なのでそろばかりを報道されてもしようがない。」

もつと他に報道しなければならないことがあるのではないのか。」「派閥を無くしたとはいえ、結局は党内の派閥争いで国民の事など考えていない。若手が立候補しても後見人が長老では改革などできず、ただの代理戦争でおわる。」「候補の推薦人に裏金をもらっていた人がたくさん名を連なつてはいる。そんな人達に、推薦された人を、総理にした

ら私達國民が納得できない。」と思つてはいるはずです。

総理が決まれば、衆議院解散になる可能性があります。その時に裏金問題、統一教会問題と解決する気のない候補者ではなく、マスコミの宣伝に騙されないで、きっちり解決する候補者に投票していただきましょう。

真夏の当番

仙洞田一彦

八月に入つて初めての日曜日の朝、ドアを開けたら「ゴミ集積所掃除当番」と書いた木の札が取手にぶら下がつた。この週の月曜日から土曜日までの一週間、団地のごみ集積所の掃除をしなければならないのだ。団地五十所帯が一週間ごとに交代して掃除するから、空き室の数によつて前後するが、およそ一年に一回、掃除当番がまわつてくれる。

三五度を超える日が続いている。乳幼児と高齢者は熱中症になりやすいから、周りの人々が注意していましようなどと言われるが、一人暮らしで

は自分で気を付けるしかない。熱中症で倒れるのは外出中よりも多いようだ。外にいれば、誰かの目に触れやすい。「あの爺さん、ふらふらしている」とか「あつ、倒れた」とか、分かりやすい。部屋の中で一人倒れても、よほどでつかい声を上げなければわからない。倒れる時には、叫ぶ体力もすでになく、声が出なくなっているだろう。大体のところ「この部屋から異臭がしますけど」と隣近所の人が言つて、発見されるのがオチではないだろうか。

天気予報で「できるだけ、外出をひかえましょう」と流される。言われなくたつて外には出たくない。冷房は一つの部屋にしか入っていない。

「爺さん、ふらふらしている」とか「あつ、倒れた」とか、分

かりやすい。部屋の中で一人倒れても、よほどでつかい声を上げなければわからない。倒れる時には、叫ぶ体力もすでになく、声が出なくなっているだろう。大体のところ「この部屋から異臭がしますけど」と隣近所の人が言つて、発見されるのがオチではないだろうか。

外に出るのは夕方、一日一回買い物に行く時だけ。本当は日没後がいいのだけど、遅くなりすぎ。日が傾いた夕方五時過ぎ、スーパーまで日陰を選んで歩いて行く。

天気予報で「できるだけ、外出をひかえましょう」と流される。言われなくたつて外には出たくない。冷房は一つの部屋にしか入っていない。

外に出るのは夕方、一日一回買い物に行く時だけ。本当は日没後がいいのだけど、遅くなる。これは夏のいい点かもしれない。

夜中に目が覚める度に、「エゴミ集積所掃除当番」の札が、ぶら下がつているのを見たとたん、憂うつきが増し、体内温度が上がつてしまふ。

集積所は奥行き一メートル幅六メートルくらいの広さ。地面にはコンクリートが打つてあり、六、七十センチくらいの高さのブロック塀で三方

冷やすには電気代が掛かるから設定温度は三〇度だ。三〇度だって、三五度の外より五度も低い。同居人があるわけではないから、パンツ一つでいる。

日中も夜も、本を読んで過ごす。陽気が良くなるとつい外に出てしまうから、外に出られない夏の方が読書量は多くなる。これは夏のいい点かもしれない。

夜中に目が覚める度に、「エゴミ集積所掃除当番」の札が、ぶら下がつているのを見たとたん、憂うつきが増し、体内温度が上がり汗でぐつしょりとなる。

外に出るのは夕方、一日一回買い物に行く時だけ。本当は日没後がいいのだけど、遅くなる。これは夏のいい点かもしれない。

夜中に目が覚める度に、「エゴミ集積所掃除当番」の札が、ぶら下がつているのを見たとたん、憂うつきが増し、体内温度が上がり汗でぐつしょりとなる。

が囲つてある。道路側は開閉可能な網で囲われ、残りは金属で囲われている。

集積所掃除当番は、ゴミ回収車が回ってきた後、こぼれ落ちたわずかなごみを篭で掃いてまとめて取り、ゴミ袋から漏れた汚水を水道水で流すだけ。そう言えば憂うつになるほどのことではない。だが、世の中と同じで、そう簡単に世の中と同様に、は行かないのだ。

月曜日は不燃ごみ。火曜日は資源ごみ。水曜日は可燃ごみ。木曜日は休み。金曜日はプラごみ。土曜日は再び可燃ごみ。空き瓶、空き缶、空きペットボトルはゆすいで、シールを剥いで出す。午前八時までに集積所に出すこと。その他、規則はこまごまとある。

憂うつになることはない。ところが曜日を間違えなくとも、回収車が来た後に出す奴がいる。曜日も間違えず、時間も守っているが、空き瓶をゆすいで出せというのに、飲み残しが入っている状態で出す奴もいる。可燃ごみの日だっていうのに、不燃ごみを出す奴もいる。本当にどうしようもない。腹が立つ。

何時も見張っているわけじゃないし、鍵が掛かっているわけじやないから、団地居住者以外もそこに置くのは可能だ。犬の糞らしきものを、ティッシュペーパーに包んだのを置いていく奴もいる。犬の糞をうちからわざわざ持ってくる奴はいないと思うから、この辺を、犬を連れて散歩している奴かもしれない。

る。曜日も間違えず、時間も守っているが、空き瓶をゆすいで出せというのに、飲み残しが入っている状態で出す奴もいる。可燃ごみの日だっていうのに、不燃ごみを出す奴もいる。本当にどうしようもない。腹が立つ。

ない。腹が立つ
何時も見張つ

何時も見張つてゐるわけじ

わけじやないから、団地居住者以外もそこに置くのは可能だ。犬の糞らしきものを、ティッシュペーパーに包んだのを置いていく奴もいる。犬の糞をうちからわざわざ持つてくる奴はいないと思うから、この辺を、犬を連れて散歩している奴かもしれない。

回収されないごみが集積所に残っていたら、出した人が持つて帰り、回収されるようにして、再度出してもらわなければならない。曜日を間違えたら、正しい曜日に朝八時までに出すこと。たとえば瓶のラベルは剥いで、中をゆすいで火曜日の朝出してください、ということだ。犬の糞は回収日がないから、持つて帰つて処分してください、ということだ。回収されないごみを持ち帰つたという話は聞こえてこない。出せば、後はもう知らないよだ。

にして、再度出してもらわなければならぬ。曜日を間違えたら、正しい曜日に朝八時までに出すこと。たとえば瓶のラベルは剥いで、中をゆすいで火曜日の朝出してください、ということだ。犬の糞は回収日がないから、持つて帰つて処分してください、とい

い、ということだ。犬の糞は回収日がないから、持つて帰

い、ということだ。犬の糞は回収日がないから、持つて帰

うことだ。回収されないごみを持ち帰つたという話は聞こえてこない。出せば、後はもう知らないよだ。

日曜日の夕方、買い物に出たついでに集積所に行つてみた。先週の当番が手間暇かけて片付けたことも考えられるが、回収されないで残つたごみは一つもなかつた。きれい

なものだつた。
集積所の入り口に「今週の
当番は二号棟三〇四××さん
です」と張り紙があつた。私
の部屋番号と私の名があつた。
なんとなく引つかかる。過去、
こんな張り紙はなかつた。な
ぜ今週に限つて私の名前の表
示があるので。親切？
翌日、月曜日の夕方。集積所
に、回収されないごみが山と
なつていた。私は考えた。
当番が私と知つて出したの
か。私へのイヤガラセなのか。
それは考え方で、このごみ
の山は单なる偶然なのか。イ
ヤガラセなのか、偶然なのか。
偶然なのか、イヤガラセなの
か。体内的温度が、どんどん
上がつていくのを感じた。立
つてゐるのも、つらくなつて
きた。